

男女共同参画セミナーを開催しました

平成23年6月8日(木)に工学部男女共同参画セミナー(工学部第1会議室)および大分大学男女共同参画セミナー(事務局棟第2会議室)を開催しました。

男女共同参画推進の取組みで先行する熊本大学の、前理事・副学長(人事・労務・男女共同参画等担当)である森光昭氏(現:同大学名誉教授)を両セミナー講師としてお迎えし、ご講演いただきました。

“工学部男女共同参画セミナー”では工学部教授会出席者約70名を対象に、松浦恵子 女性研究者サポート室長がサポート室の支援活動内容を紹介した後、『女性教員を増やす方策』の演題で、「男女共同参画社会基本法や第3期科学技術基本計画の内容に触れながら、今や男女共同参画の推進は、大学の業務実績の評価対象にも組み込まれていること」を説明され、熊本大学での具体的な取組み内容についてお話いただきました。

“大分大学男女共同参画セミナー”では管理職員中心に約40名を対象に、『熊本大学の男女共同参画推進の取組み』の演題で講演されました。講演では、「男女共同参画や女性研究者支援を推進するために全学的推進体制の確立やコーディネーター制度を創設したこと、意識改革・制度改革・保育支援・チャレンジ支援の具体的活動の説明および採択事業終了後の継続策」などについてお話いただきました。

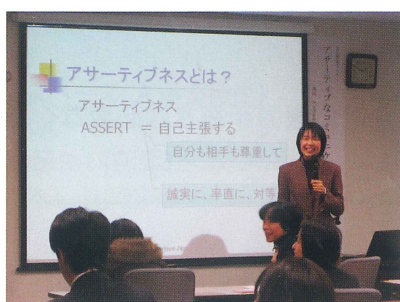


意識啓発

自己啓発セミナー 『アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう』を開催しました

平成23年3月17日(木)、自己啓発セミナー「アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう」を開催しました。講師として、NPO法人アサーティブジャパン代表理事の森田汐生氏をお招きし、参加者全員による実践や代表者によるロールプレイを交えながら、2時間のセミナーを行いました。

講演では、「自分の気持ちに誠実になり、相手にも誠実に気持ちを表現する」ことなど、アサーティブなコミュニケーションを実践するための重要なポイントを、講師の体験談を織り交ぜながらお話いただきました。



*本セミナーを収録したDVDを貸出します。

『医学部新入生を対象とした男女共同参画教育』が行われました

大分大学では、平成22年10月に男女共同参画行動計画が策定されました。その行動計画に掲げられた「男女共同参画に関する教育の推進」の最初の取組みとして、平成23年4月7日に医学部新入生(医学科101名、看護学科70名)を対象に男女共同参画教育が行われ、教育福祉学部 山岸治男 教授は、ご自身の経験やエピソードを織り交ぜながら、「男女共同参画を基にして、今後のキャリア形成・ライフコースの形成を図っていくことが大切である」と話をされました。

参加した新入生からは、「自分で納得のいく、自分の創った人生を歩んでいきたいと思った」や「今後の人生設計の参考になった」など多くの感想や意見を頂きました。



特集

出産・育児に係る勤務時間、休日、休暇についてご存じですか？

大分大学では教職員が出産・育児の際に利用できるさまざまな制度があります。男性教職員が利用できる制度も多くあります。

いろいろな休暇を使いこなし、仕事と生活の調和を図りましょう。

適用条件等は大分大学の就業規則等をご覧ください。

不明な点などがあれば総務部人事課にお問い合わせください。



	妊娠	産前休暇開始	出産	産後休暇終了	こども1歳	3歳	小学校就学
女性教職員		産前休暇(特別休暇)	産後休暇(特別休暇)		育児休業 <small>無給</small>		
	保健指導または健康診査(職務専念義務免除)				育児部分休業 <small>無給</small>		
	通勤緩和、休憩・補食(職務専念義務免除)						
	休日勤務の免除						
	時間外勤務の免除						
	深夜勤務の免除						
	危険有害業務免除						
	業務軽減						
						時間外勤務の制限	
						授乳時間(特別休暇)	
					託児所送迎(特別休暇)		
					子の看護・予防接種・健康診断(特別休暇)		
男性教職員				育児休業 <small>無給</small>			
				育児部分休業 <small>無給</small>			
				時間外勤務の免除			
				時間外勤務の制限			
				深夜勤務の免除			
				配偶者出産休暇(特別休暇)			
				託児所送迎(特別休暇)			
				子の看護・予防接種・健康診断(特別休暇)			
	※図は大分大学教職員に係るものですが、非常勤教職員に適用されるものも多くあります。						

枠内は育児休業の取得期間外に適用されます。

枠内は育児休業の取得期間外に適用されます。

情報

裁量労働制適用者は、勤務日の一部について勤務しない場合は休暇の手続きは必要なく、終日勤務しない場合のみ休暇の手続きが必要になります。

参照 国立大学法人大分大学職員就業規則(平成16年4月1日制定)
 国立大学法人大分大学に勤務する職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規程(平成16年4月1日制定)
 国立大学法人大分大学職員の育児休業等に関する規程(平成16年4月1日制定)

第1回 FABキャリア交流会を開催しました。

～女性研究者サポート室では、企業や研究の現場で現在活躍されている先輩方を招いて、ご自身のキャリアなどについて語っていただき、気軽に意見交換を行える“FABキャリア交流会”を企画します。さまざまなキャリアをお持ちの方々の仕事への姿勢や考え方に触れることで、参加された方が自身のキャリア形成を考えるきっかけを掴み、スキルアップできるような会にしていきます～

第1回目は、(株)白石中央研究所事務課の当真瑞代さんと工学部の堤紀子先生を囲み、総勢32名(学生22名)で昼食をとりながらの開催となりました。

当真さんをご自身の経歴を述べられる中で、人生の岐路で何を考え、何を選択してきたか、どのような働き方をしてきたかについてお話いただきました。

工学部の堤先生は、研究者の道を選んだ経緯や女性研究者として心がけていることなど、学生へのアドバイスを織り込みながら話をされました。

参加した学生のアンケートからは、自分の進路を考える新たな視点を持てたことやスキルアップを図ることの必要性を感じたとの感想が寄せられました。

(平成23年7月1日 11時30分から13時 工学部事務棟3階第3会議室)



情報
交換

FAB交流会を開催しました

学内の女性研究者のネットワーク構築の一環として、他学部・他学科の女性教員との交流を目的に5月20日に第1回目“FAB交流会”を開催しました。

今回は教育福祉科学部の教員2名、経済学部の教員2名、医学部教員1名およびサポート室スタッフ3名が参加し、昼食をとりながら情報交換を行いました。

これまで、同じ学部の女性教員でもあまり交流がなく、他の学部にはいったてはどのような女性教員がいるのかさえ知らないという状況でした。

今回のような交流会を開催するによって、女性研究者(女性教員および女子大学院生)の学部・研究科を超えたネットワークを構築するとともに、情報交換の中で女性研究者の悩みや問題、要望などを把握することで、今後の活動に役立てていきます。



お知らせ

●新スタッフの紹介

協力教員として山崎栄一准教授(教育福祉科学部)が、室員として丸山あや(看護師・コーディネーター)が新たに加わりました。

●サポート室“FAB”の紹介リーフレットができました。

サポート室ホームページの右側メニュー「発行物」からダウンロードできます。



「女性研究者と語ろう」開催 (平成23年8月10日)

大分大学オープンキャンパスの開催に合わせ、女性研究者サポート室“FAB”では女性研究者との懇談や研究室見学等の行事を行います。

巨野原キャンパス

教養教育棟 1階 多目的スペース(入退室自由)

- 「女性研究者と語ろう」開催 (11:00～14:00)
- 女性研究者サポート室の紹介 (9:30～15:30)

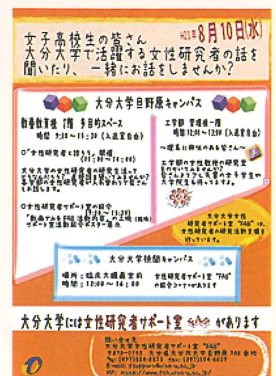
工学部管理棟1階(入退室自由)

- 工学系の女性教授の研究室を見学できます (12:00～13:00)

挟間キャンパス

臨床大講義室前

- 女性研究者サポート室“FAB”の紹介コーナーを設けます(13:00～16:00)



大分大学の輝く女性研究者(2)

Female Academics at Bundai

大分大学で研究に取り組んでいる女性は現在263名(教員90名、大学院生173名)(平成23年5月1日現在)です。でも実際の研究者がどのような研究生活を送っているか意外と知られていません。このコーナーでは大分大学で活躍する女性研究者を紹介していきます。第2回目は、教育福祉科学部 鄭敬娥 准教授と経済学部 本谷りり 准教授を紹介します。



教育福祉科学部
社会認識教育講座
しよん きよんあ
准教授 鄭 敬娥さん

【略歴】

韓国光州市生まれ。九州大学大学院比較社会文化研究科博士課程修了。2003年大分大学教育福祉科学部着任。現在に至る。

仕事の内容は?

国際関係論、なかでも東アジア地域主義や日本の対アジア外交を研究しています。教育では、政治学や国際関係論を中心に今日の日本と国際社会を分析する枠組みを提示しながら、皆さんと楽しく議論できるよう工夫を重ねる毎日です。

進路決定のきっかけは?

ジャーナリストを目指して大学新聞社などで活動するうち、自分の専門分野を持つ必要性を痛感しました。ときは、韓国民主主義運動の最中、政治学の道に進むことに迷いはありませんでした。昔も今も、大学での就職は難しいといわれる分野ですが、何とか周りの方々のおかげで研究を続けることができました。

研究の魅力は?

膨大な数の外交文書や先行研究の分析など、地味な仕事の連続ですが、昨日まで知らなかった事実が分かってくる、その点と点を結んで自分なりの論理が展開できたときは、やはり喜びを感じます。

後輩へのアドバイスは?

研究への魅力を感じていても、就職などへの不安から別の道を選ぶ人をたくさん見てきました。特に社会科学系は、大学院まで行ってしまうと、その先の道は狭くなる一方。しかし、今のご時世、どこに進もうとリスクはつきもの。半分、諦めてしまえば案外楽になったりするものです。しばらく人並みの生活は置いておいて、自分のテーマにとことん向き合ひましょう。その先に道はきっと広がります。もし広がらなかったら…。その時はその時で、それまでやったことを活かす道を考えましょう。多少回り道になるかもしれないけど、道は続くことでしょう。

ワークライフバランスについて

特にバランスを意識しながら生活するわけではありませんが、週末はなるべく散歩をしたり映画を観るなど、仕事以外の自分の時間を大切にしています。



経済学部
経営システム学科
准教授 本谷 りりさん

【略歴】

石川県生まれ。九州大学大学院経済学研究科博士後期課程を単位取得退学し、1999年大分大学経済学部へ赴任。専門は経営組織論。

仕事の内容は?

経営システム学科で専門科目としては組織論(科目名は組織革新論)を、その他ゼミや教養教育科目なども担当しています。自身の研究では、設立からの歴史が長い長寿企業や老舗企業の組織について研究しています。

進路決定のきっかけは?

学部2年次にゼミを決定する際に、ある先生がとても楽しそうに講義をしている姿や講義内容に興味をおぼえ、その先生のゼミに所属し大学院進学を決めました。また、家族が自営業を営んでいたことも経営学を学ぼうと思ったきっかけになったように思います。大学院生の頃は就職するのかで大学で研究職に就くのか、の選択でさんざん迷いましたが、やはり研究することの楽しさに惹かれました。

後輩へのアドバイスは?

私自身、ふとした疑問や不思議に思うこと、気になったことなどを、大切にすることができています。何でもなさることから研究の芽が出てくるような気がするのです。そして、当たり前と思っていることは本当にそうなのか、ということを確認することが研究の第一歩ではないかと考えています。

研究の魅力は?

企業にしるそれ以外の組織体にしる、複数の人がいて成り立っています。組織もまた個性を持ち、それぞれに違いがあります。組織を研究していると、まるで生き物のように感じられることがあります。一体どうなっているのだろうと興味はつきません。実際に経営に携わる方々からお話を伺ったり組織で働く様子を見学させていただいたりして組織というもの、の有り様を考える時、そのことを言葉に表現できた時などに、充実感や楽しさ、やりがいを感じます。

ワークライフバランスについて

没頭するとそれ以外は見えなくなってしまうことがあるので、何事にもメリハリをつけて取り組むようになっています。そして何をするにしても健康でなければならぬと感じるようになってきました。健康維持や体力を落とさないようにすることもこれからの課題と思っています。

編集後記

本格的な夏を迎え、「節電、いかに快適に乗り切るか」がこの夏最大の関心事ではないでしょうか?大分大学事務局棟では緑のカーテンが成長し、涼しげな影を落としています。さて平成22年度に活動を開始したサポート室ですが、今年度も女性研究者支援の意義やサポート室の活動内容をさらに多くの人に理解していただくような取り組みを積極的に行っていきます。

大分大学 女性研究者サポート室

News Letter

編集・発行元 / 発行日 2011年7月

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 "FAB" Female academics at Bundai
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL(097)554-8573 FAX(097)554-6039
E-mail:fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/